

令和3年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	公民・現代社会	講座名	現代社会	対象年次	3
教科担任	中川俊明・永田えり夏			単位数	2
教科書	『現代社会』東京書籍				
副教材等	『ライブ！現代社会』帝国書院、『現代社会 要点サブノート』東京書籍				

学習目標	現代社会の基本的知識の習得をもとに、さらに広い視野に立った学習を進め、現代の諸問題に対する関心及び思考力・判断力・表現力を中心とする問題解決能力を高める。
------	---

月	期間	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
4月 ～ 5月	第一 回 定期 考 査	現代社会の特質と課題 青年期と自己形成 よく生きることが求めている	12h	地球環境問題 資源・エネルギー問題 科学技術の発達と生命倫理の問題 高度情報社会 青年期の意義と課題 哲学と人間、宗教と人間 近代科学の考え方 人間の尊厳 日本の伝統思想と外来思想の受容	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい社会を形成していくために、現代社会における諸課題をとらえ考察するための考え方の枠組みを身に付ける。 ・社会と関わりあう中でアイデンティティを確立し、よりよく生きることを追求する大切さを自覚する。 ・先哲の思想を基に、人間の存在や価値について多面的に考察し、今日的な課題について探究する姿勢を身に付ける。
5月 ～ 7月	第二 回 定期 考 査	日本国憲法の基本原理、現代政治の特質と課題 経済のしくみ 変化する日本経済	12h	日本国憲法の基本原理 選挙制度 経済社会の変容、現代の企業 市場経済・金融のしくみ 中央銀行・政府の役割と財政 戦後復興と高度経済成長 産業構造の転換と経済環境の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・民主政治の基本的な考え方、日本国憲法の基本原理について理解し、選挙制度のしくみについて理解するとともに、政治参加の重要性を踏まえて、主権者としての在り方生き方を考察する。 ・経済発展、産業構造の変化、市場経済や中央銀行のしくみと役割について理解し、個人や企業の経済活動における役割と責任について考察する。
7月 ～ 10月	第三 回 定期 考 査	豊かな生活の実現 国際政治のしくみと動向 国際経済のしくみと動向	14h	環境保全と循環型社会 国際社会の特質、国際紛争、国際連合、軍縮への取組 貿易と国際分業、外国為替 戦後国際経済の変化 対立と協調 グローバル化	<ul style="list-style-type: none"> ・健全な経済発展を図り、持続可能な社会を築くことが、地球規模の環境保全にとって必要であることを理解する。 ・国際社会において国際間の秩序を作り出す国際法の意義と役割について理解する。 ・経済活動が世界的な規模で自由に行われること相互依存関係が深まっていることを理解する。 ・国際社会の諸課題について考察し、国際社会における日本の役割について考える。
10月 ～ 12月	第四 回 定期 考 査	国際社会と人類の課題 ともに生きる社会をめざして 日本国憲法の基本原理、民主政治 日本の政治機構	14h	世界経済、国際的な格差は正 地球規模の課題、日本の役割 持続可能な社会の形成 平和主義と安全保障 政党政治、地方自治など	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会が直面する様々な課題を解決するためには、国家及び国際的な機構や組織、NGO、企業などが互いに連携しながら協力していくことが大切であることを理解し、国際平和、国際協調について考える。 ・平和主義や日本の政治機構などについて理解し現代の政治の諸課題について考察する。
12月 ～ 3月		現代政治の特質と課題	18h	日本の役割 持続可能な社会の形成 大学入試問題への対策 論述問題対策、小論文対策	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の政治の諸課題について考察し、政治参加の重要性を踏まえて、主権者としての在り方生き方を考察する。
評価の観点・方法		現代社会全般の基本的知識と現代社会における諸問題についての思考力、判断力、表現力を高めることができたかを評価の観点とする。評価は定期考査を中心に、授業中の課題や、演習問題への取り組み等を考慮し総合的に行う。			

令和3年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	公民・倫理	講座名	倫理（必選）	対象年次	3
教科担任	永田えり夏			単位数	2
教科書	『高校倫理 新訂版』実教出版				
副教材等	『アプローチ倫理資料集 PLUS 2021』東京法令出版				

学習目標	世界の倫理思想史上の重要事項および青年期における人間形成の意義を理解し、人間としてのあり方、生き方についての思索を深める。現代社会の諸課題を理解し、社会の一員として自己がどのように関わり、その解決にどう貢献できるか自覚と思索を深め、よき公民としての資質を養う。また、大学入試に対応できる実践力を身に付ける。
------	---

月	期間	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
4月	第一回定期考査	現代に生きる 自己の課題 青年期の課題 と自己形成 人生における 哲学、宗教 人生の知恵	1 2 h	人間の特質 青年期とは 適応と個性 現代青年の特色と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の意義とその課題について関心を高める ・現代の倫理的課題について理解を深め、自らの人生観、世界観、価値観の形成に活かす知識を身に付ける。 ・ギリシャの先哲の思想や中国思想を基に、人間の存在や価値、人間関係や社会生活について多面的・多角的に考える。 ・宗教思想への理解を深め、今日的な課題について探究する姿勢を身に付ける。
5月				古代ギリシャの思想 自然哲学、ソフィスト、 ソクラテス、プラトン、 アリストテレス キリスト教、イスラーム、 仏教、中国思想	
5月	第二回定期考査	現代社会と倫理	1 2 h	ルネサンス、宗教改革 モラリスト	<ul style="list-style-type: none"> ・先哲の人間についての考えへの理解を深め、人間の存在や生命の深遠さについて考える。 ・先哲の思想を手掛かりに現代の科学技術の根底にある基本的な見方考え方への理解を深める。 ・科学技術が人間に及ぼした諸問題について主体的に考えられるよう、倫理的な見方や考え方を身に付ける。
7月				近代科学の誕生 経験論、合理論、 社会契約説 ドイツ観念論、功利主義	
7月	第三回定期考査	現代社会と倫理 国際社会に生きる 日本人の自覚	1 4 h	社会主義、実存主義、 ヒューマニズム 日本の風土と伝統 仏教の伝来 儒教の日本化、国学 近世庶民の思想 西洋近代思想の受容	<ul style="list-style-type: none"> ・先哲の考え方を複数取り上げることで、よりよく生きることや生きがいについて考える。 ・日本人の心情やものの見方・考え方と風土との深い関わりをとらえ、これらが、その後の日本思想の底流となっていることを理解する。 ・日本の仏教、儒教について、どのように受け入れ、展開していったのかを理解し、日本人の思想形成に及ぼした影響について考える。
10月				近代的自我の成立 近代日本哲学の成立	
10月	第四回定期考査	国際社会に生きる 日本人の自覚 現代における 理性の問題 現代の諸課題と 倫理	1 4 h	生命倫理、環境倫理、 現代の家族、地域社会、情 報社会、異文化理解 人類の平和と福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・近代日本の哲学を理解し、現代社会を生きる際の自己形成の一つの視点としてこれを生かし、国際社会を主体的に生きる姿勢を養う。 ・様々な倫理的課題について、他者との関わりで生きるという視点を忘れずに考え、人間としての在り方生き方についての自覚を深める。 ・大学入試に対応できる実践力を身に付ける。
12月					
12月		大学入試問題 演習	1 8 h	大学入学共通テストに 向けた問題演習 大学入試に向けた 実践問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試に対応できる実践力を身に付ける。
3月					

評価の観点・方法	現代における倫理的課題と自己形成について関心を高め、課題についての思考力、判断力、表現力を高められたかを評価の観点とする。評価は、定期考査を中心に、授業中の課題、演習問題への取り組み等を考慮して総合的に行う。
----------	--

令和3年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	公民・倫理	講座名	倫理（自選）	対象年次	3
教科担任	永田えり夏			単位数	2
教科書	『高校倫理 新訂版』実教出版				
副教材等	『アプローチ倫理資料集 PLUS 2021』東京法令出版				

学習目標	世界の倫理思想史上の重要事項および青年期における人間形成の意義を理解し、人間としてのあり方、生き方についての思索を深める。現代社会の諸課題を理解し、社会の一員として自己がどのように関わり、その解決にどう貢献できるか自覚と思索を深め、よき公民としての資質を養う。また、大学入試に対応できる実践力を身に付ける。
------	---

月	期間	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
4月 ～ 5月	第一回定期考査	現代に生きる 自己の課題 青年期の課題 と自己形成 人生における 哲学、宗教 人生の知恵	1 2 h	人間の特質 青年期とは 適応と個性 現代青年の特色と課題 古代ギリシャの思想 自然哲学、ソフィスト、 ソクラテス、プラトン、 アリストテレス キリスト教、イスラーム、 仏教、中国思想	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の意義とその課題について関心を高める ・現代の倫理的課題について理解を深め、自らの人生観、世界観、価値観の形成に活かす知識を身に付ける。 ・ギリシャの先哲の思想や中国思想を基に、人間の存在や価値、人間関係や社会生活について多面的・多角的に考える。 ・宗教思想への理解を深め、今日的な課題について探究する姿勢を身に付ける。
5月 ～ 7月	第二回定期考査	現代社会と倫理	1 2 h	ルネサンス、宗教改革 モラリスト 近代科学の誕生 経験論、合理論、 社会契約説 ドイツ観念論、功利主義	<ul style="list-style-type: none"> ・先哲の人間についての考えへの理解を深め、人間の存在や生命の深遠さについて考える。 ・先哲の思想を手掛かりに現代の科学技術の根底にある基本的な見方考え方への理解を深める。 ・科学技術が人間に及ぼした諸問題について主体的に考えられるよう、倫理的な見方や考え方を身に付ける。
7月 ～ 10月	第三回定期考査	現代社会と倫理 国際社会に生きる 日本人の自覚	1 4 h	社会主義、実存主義、 ヒューマニズム 日本の風土と伝統 仏教の伝来 儒教の日本化、国学 近世庶民の思想 西洋近代思想の受容	<ul style="list-style-type: none"> ・先哲の考え方を複数取り上げることで、よりよく生きることや生きがいについて考える。 ・日本人の心情やものの見方・考え方と風土との深い関わりをとらえ、これらが、その後の日本思想の底流となっていることを理解する。 ・日本の仏教、儒教について、どのように受け入れ、展開していったのかを理解し、日本人の思想形成に及ぼした影響について考える。
10月 ～ 12月	第四回定期考査	国際社会に生きる 日本人の自覚 現代における 理性の問題 現代の諸課題と 倫理	1 4 h	近代的自我の成立 近代日本哲学の成立 生命倫理、環境倫理、 現代の家族、地域社会、情 報社会、異文化理解 人類の平和と福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・近代日本の哲学を理解し、現代社会を生きる際の自己形成の一つの視点としてこれを生かし、国際社会を主体的に生きる姿勢を養う。 ・様々な倫理的課題について、他者との関わりで生きるという視点を忘れずに考え、人間としての在り方生き方についての自覚を深める。 ・大学入試に対応できる実践力を身に付ける。
12月 ～ 3月		大学入試問題 演習	1 8 h	大学入学共通テストに 向けた問題演習 大学入試に向けた 実践問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試に対応できる実践力を身に付ける。

評価の観点・方法	現代における倫理的課題と自己形成について関心を高め、課題についての思考力、判断力、表現力を高められたかを評価の観点とする。評価は、定期考査を中心に、授業中の課題、演習問題への取り組み等を考慮して総合的に行う。
----------	--

令和3年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	公民・現代社会	講座名	現代社会演習	対象年次	3
教科担任	永田えり夏			単位数	2
教科書	『現代社会』東京書籍				
副教材等	『ライブ！現代社会2021』帝国書院、『現代社会 要点サブノート』東京書籍				

学習目標	現代社会の基本的知識の習得をもとに、さらに広い視野に立った学習をすすめ、大学受験への対応、特に大学入学共通テストに対応できる思考力、問題解答力を養う。そして、将来大学で学ぶ際に基礎となる社会科学系の知識を定着させ、問題解決能力を高める
------	---

月	期間	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
4月	第一回 定期 考査	現代社会の特質と課題	12h	現代世界と日本 大衆社会、高度情報社会、グローバル化 少子高齢化、科学技術の発達と生命の問題	<ul style="list-style-type: none"> ・基本事項の習得を第一としながら、幅広い知識習得をめざさせる ・毎回、センター形式の問題(10問ほど)を実施し、定着度を確かめる
5月		青年期の課題 民主社会の倫理 日本の文化		青年期の意義と課題 現代に生きる思想、ギリシア思想等源流思想 民主社会に生きる 個人と社会の倫理 日本の伝統的文化と心情	
5月	第二回 定期 考査	経済のしくみ	12h	市場経済、現代の企業	<ul style="list-style-type: none"> ・基本事項の習得第一としながら、幅広い知識習得をめざさせる ・毎回、センター形式の問題(10問ほど)を実施し、定着度を確かめる
7月		日本経済の現状と課題		財政、金融政策 消費者問題、環境問題、経済格差	
7月	第三回 定期 考査	国際的な諸問題	14h	安全保障、軍縮問題 貿易摩擦、南北問題	<ul style="list-style-type: none"> ・基本事項の習得第一としながら、幅広い知識習得をめざさせる ・毎回、共通テストに向けた演習問題を実施し、定着度を確かめる ・国際問題に関する知識の少なさを補充する
10月		現代に生きる思想 日本国憲法の原則		激動期を人間らしく生きる(ヒューマニズム) 人権保障と統治機構 平和主義と安全保障体制	
10月	第四回 定期 考査	日本の政治のしくみ	14h	政党政治、選挙制度 戦後の55年体制～連立政権の時代	<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習と解説を中心にして進める ・共通テスト対策を中心とする
12月		現代の諸課題		全範囲(現代の課題、政治、経済、国際問題、青年期、倫理)について問題演習、解説など	
12月	現代の諸課題	現代の諸課題	18h	全範囲(現代の課題、政治、経済、国際問題、青年期、倫理)について問題演習、解説など	<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習と解説を中心にして進める ・実力の確認に適切な問題を選ぶ ・記述、論述対策 小論文対策をする
3月				論述問題対策、小論文対策の問題	
評価の観点・方法		大学受験への対応、特に大学入学共通テストに対応できる思考力、問題解答力が身に付いたかを評価の観点とする。評価は、考査を中心に、日常の小テスト、演習問題への取り組み等を考慮し総合的に行う			

令和3年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	公民・政治・経済	講座名	政治・経済	対象年次	3
教科担任	中川俊明			単位数	3
教科書	『政治・経済』 東京書籍				
副教材等	『要点マスター 政治・経済演習ノート』東京書籍、『政治・経済資料』東京法令出版、 『政治・経済用語集』山川出版社				

学習目標	政治、経済、国際問題の基礎を学習し、大学受験に対応できる力を育成するとともに、大学での学問研究の根本となる社会科学系の知識や学説などを身につけさせ、問題解決能力を高めてゆく。そして、有為な社会の形成者としての資質を伸ばしてゆく。
------	--

月	期間	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
4月	第一回定期考査	現代の政治 1、民主政治の基本 原理	18h	政治と法 マックス・ウェーバーの分類による 支配の形式、民主政治のあゆみ、法の支配、社会 契約説、権力分立、諸国の政治制度 明治憲法の特徴 自由民権運動、大正デモクラ シー、日本国憲法の制定、最高法規性、 基本的人権の保障、永久不可侵性、法の下での平 等、自由権、精神の自由と経済上の自由 社会権、新しい人権、平和主義、日米安保体制	<ul style="list-style-type: none"> ・基本事項の習得を第一としつつ、歴史の分野など幅広い知識習得をめざさせる ・毎回、確認テストを実施し、理解度を確かめ定着度を高める
5月		2、日本国憲法と基本的人権			
5月	第二回定期考査	現代の政治 3、日本の政治機構	18h	国会、内閣と行政機構、裁判所のしくみ、人権保障と違憲審査制度、地方自治のしくみ 政党政治、55年体制、選挙制度の問題点、世論とマスメディア、民主主義における公共性 国際社会の特質、国際法、勢力均衡と集団安全保障、国連とPKO、戦後国際政治の展開 冷戦の終結と新秩序の模索	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒各自が自らの問題意識に基づき深く学習できるように、参考文献や映像資料の提示を欠かさない ・自らが社会の形成者となることを意識させる
7月		4、政治参加と民主政治の課題 5、国際政治動向			
7月	第三回定期考査	現代の政治 6、国際社会の課題と日本の役割	21h	核兵器の廃絶と軍縮、地域紛争と人種民族問題、パレスチナ、旧ユーゴ、チェチェン、カシミール、日本の国際的地位と役割、イスラーム 人間と経済活動、経世済民、クールヘッド&ウォームハート、資本主義経済と私有財産制、ケインズ主義とマネタリズム、経済活動の主体 現代の企業、企業の社会的責任	<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習と解説を中心にして進める ・センター試験対策として、まず前年の問題について1つ1つ取り組む
10月		現代の経済 1、経済活動の意義			
10月	第四回定期考査	現代の経済 2、現代経済のしくみ	21h	市場経済のしくみ、需要と供給、物価の動向 国民所得と経済成長、財政のしくみと租税 金融のしくみとはたらき、金融政策 戦後日本経済のあゆみ、中小企業、農業と食料、公害と環境保全、消費者問題、労働問題、少子高齢社会と社会保障 貿易と国際収支、国際経済のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ・数理的思考を使って経済学の基礎にふれる ・戦後日本の歩み、ことに高度経済成長についてしっかり学習する ・今日の国際問題の焦点を意識させる
12月		3、日本経済と福祉の向上 4、国際経済動向			
12月	第五回定期考査	現代の経済 5、国際経済の課題と国際協力	27h	地球環境とエネルギー、南北問題、国際経済における日本 全範囲（政治と法、経済、国際問題など） について問題演習、復習解説など 論述問題対策、小論文対策の問題	<ul style="list-style-type: none"> ・より高度な問題に取り組むことで考える力を伸ばす ・記述、論述、小論文など書いて答える問題に取り組む
3月		全範囲の演習			
評価の観点・方法		この授業では、政治・経済全般の基本的知識の習得と活用力の育成をめざし、大学受験に対応できるようにする。評価は主に考査によるが、日常の小テストや演習問題への取り組み姿勢、さらに読書に対する姿勢等を考慮し総合的に行う。			

令和3年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	公民・政治・経済演習	講座名	政治・経済演習	対象年次	3
教科担任	中川俊明			単位数	2
教科書	『政治・経済』 東京書籍				
副教材等	『要点マスター 政治・経済演習ノート』東京書籍、『政治・経済資料』東京法令出版、 『政治・経済用語集』山川出版社、『センター試験 政治・経済重要問題集』実教出版				

学習目標	政治・経済の基本的知識をもとに思考力読解力を高め、大学受験に対応できる真の実力を養成する。入試問題演習に積極的に取り組み、特にセンター試験の問題と難関私立大学の問題に対する学習を深める。そして今後の大いなる成長を期し、社会科学系学問の基礎力を定着させ、社会および自己に関わる問題に取り組んでゆく能力を養う
------	--

月	期間	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
4月	第一回定期考査	政治分野 民主政治の基本 原理と日本国憲法	1 2 h	民主政治の本質・原理、基本的人権の変遷、法の支配、権力分立と議会政治、議院内閣制と大統領制、日本国憲法の基本三原則と最高法規性、新旧憲法の比較、国民権主義、基本的人権と公共の福祉、平和主義と安全保障、日本の政治制度	・理解度確認のテストと入試対策実践力のテストとを使いわけ
5月				5月	政治分野 民主政治の諸問題 経済分野 国民経済の構造と理論
7月	第三回定期考査	国際政治 現代の国際政治 国際経済	1 4 h	国際社会と国際法、勢力均衡と集団安全保障、国際連盟国際連合、東西冷戦とポスト冷戦、戦後日本の外交 貿易、国際収支と外国為替、国際経済機関、国際通貨問題、地域的経済統合、日本の対外経済関係 ・早稲田大、青山学院大、立命館大の問題	
10月				10月	現代の社会の諸課題 全範囲
12月	第五回定期考査	全範囲	1 8 h	政治、経済、国際相互にからんだ問題 （特に国際問題） 論述問題、小論文の問題の対策	
3月				評価の観点・方法	授業内で実施する諸テストと問題に対する取り組みをもとに総合的に判断する。 また、どれだけ伸びたかを測り、努力度を評価に組み入れられるようにする（年間では後期を重視）